

兵庫県防衛協会 顧問

平成26年新春メッセージ ～安全元気ふるさと兵庫の実現～

新年あけましておめでとうございます。

わが国経済は、円高是正を背景に輸出産業を中心に明るさが出てきました。この動きを地方や中小企業へと広げ、持続可能な発展につなげていかねばなりません。人口減少や少子化、高齢化への対応、地域経済の再生、地震・風水害への備えなど、取り組むべき課題は明らかです。今こそ、これまで培ってきた力を結集し、兵庫から成熟社会にふさわしい新たなモデル構築をめざし、挑戦していくときです。

一つには、安全安心の確保です。震災20周年に向けて、改めて兵庫の経験と教訓を発信するとともに、地震・津波・風水害対策に万全を期します。

また、社会インフラの長寿命化や高齢者の地域見守りの充実など暮らしの基盤を確かにします。二つには、人、地域、産業の元気づくりです。若者の就業支援をはじめ、女性、高齢者、障害者の社会参画を促進するとともに、大河ドラマ「軍師官兵衛」のスタートを契機として内外の交流を拡大します。産業イノベーションの創出や農林水産物のブランド化に取り組み、産業力を強化します。

三つには、ふるさと兵庫づくりです。ふるさとへの誇りと愛着を育み、地域と歩む人々とともに、多様性を活かした兵庫らしい地域づくりを進めます。そのためにも、地方分権改革と行財政改革の着実な推進が欠かせません。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが、その翌年には関西マスターズゲームズ2021が開催されます。豊かな自然・歴史・文化が息づき、多様な産業が躍動し、そして人々がいきいきと活動する「安全元気ふるさと兵庫」を実現し、世界へ発信していこうではありませんか。

ふるさとの 未来の課題を 乗り越えて 安全元気の 地域をつくる



兵庫県知事 井ノ敏三



- ① 年頭の辞
- ② 神戸ときめきコンサート
- ③ 全国防衛協会青年部会宮崎研修大会
- ④ 兵庫地方協力本部だより

発行 兵庫県防衛協会 電話 078-261-9780 印刷 丸の内印刷社

謹賀新年

輝かしい新春を迎え、謹んで皆様のご清福をおよこび申し上げます。本年も引き続きご愛読いただきますようお願い申し上げます。

兵庫県防衛協会 会長

このように国民の期待が寄せられている今こそ、我々兵庫県防衛協会は県民に対する防衛思想の普及・高揚に尽力し、自衛隊の良き理解者として活動して参らなければならぬと痛感している次第であります。 こういった観点から今後とも、隊員の皆様にあらゆる任務に取り組める環境作りを積極的に進めていく所存であります。 最後に皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

また、平素は当協会の活動に対しご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。 さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、大きく変化しており中国との領土・領海問題はもとより最近では一方的な防空識別圏の設定による挑発的活動などで予測される問題など日本近海における問題は山積となつていいます。また、国内においては、大規模災害による災害派遣、普天間飛行場の移設問題、南海トラフ巨大地震への対応等、様々な課題に対する対応が求められております。 このような中において、国民の自衛隊への期待は益々大きくなってきていることは言うまでもありません。我が国の安心を担う自衛隊の皆さんは日々厳しい訓練をつまね、警戒監視・情報収集活動、国際平和協力活動等の実際に我が国を守る防衛力として機能するとともに、災害派遣での迅速な行動や被災地に対する心のこもった活動等で日本国民から高い評価を受けています。

かには新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。 また、平素は当協会の活動に対しご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。 さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、大きく変化しており中国との領土・領海問題はもとより最近では一方的な防空識別圏の設定による挑発的活動などで予測される問題など日本近海における問題は山積となつていいます。また、国内においては、大規模災害による災害派遣、普天間飛行場の移設問題、南海トラフ巨大地震への対応等、様々な課題に対する対応が求められております。 このような中において、国民の自衛隊への期待は益々大きくなってきていることは言うまでもありません。我が国の安心を担う自衛隊の皆さんは日々厳しい訓練をつまね、警戒監視・情報収集活動、国際平和協力活動等の実際に我が国を守る防衛力として機能するとともに、災害派遣での迅速な行動や被災地に対する心のこもった活動等で日本国民から高い評価を受けています。



川崎重工工業株式会社 相談役 大橋 忠晴

新年明けましておめでとうございます。 防衛協会会員並びに本誌読者のみなさまにおかれましては、健やかに

年頭の辞

防衛省自衛隊

このような厳しい情勢において、私ども自衛隊は統合運用の下、緊迫感を持ち、わが国防衛のため日夜間隙のない警戒監視活動を継続しつつ災害を含む不測事態への迅速な対応能力をより一層向上させる活動、並びに国際平和協力活動等の着実な成果の累積拡大に積極的に取り組んでいます。我々兵庫地本としても皆様の大きな期待を受け、わが国の防衛及び国際平和への国民意思を体現する重要な役割を担い得る有為な人材を努めて多く確保し、自衛官として防衛に専念した後、安心して退官等を迎えられるよう募集・援護業務に専心努力するという使命を銘記し、チーム一丸となり日々誠実に業務を遂行していく所存でありますので、昨年と同様にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

小職昨年の12月18日付で兵庫地方協力本部長の職を拝命致しました。決意を新たに全力をもちて挑む所存でありますので、ご支援・ご厚情を賜りますようお願い致します。 さて、わが国を取り巻く安全保障環境は、引き続き非常に複雑で不透明・不確実な状況にあります。特に、尖閣諸島での中国による領海・領空侵犯や一方的な防空識別圏の設定などは、我が国に格な対応が必要な事態となっております。また、近い将来発生すると予測されている南海トラフ巨大地震への対応と余談を許さない状況でもあります。

心を持ち広く県民の皆様に対する防衛思想の普及等にご尽力頂くとともに、防衛省・自衛隊の活動に対し深いご理解の下、各種自衛隊行事等への協賛、自衛官の再雇用等にご支援を頂き厚く御礼申し上げます。 素より我が国の防衛について高い関心をもち、皆様の皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、平



自衛隊兵庫地方協力本部長 尾崎 孝

新年明けましておめでとうございます。 防衛協会の皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、平

新春のご挨拶

# 第17回神戸ときめきコンサート



フィナーレは、「しあわせ運べるように」をなぎさ小学校児童が第3音楽隊と呉音楽隊の演奏に合わせて合唱

## 神戸ときめきコンサート

「明るい未来へ  
みなさんごきげん」

第17回神戸ときめきコンサート ファイナルが12月1日(日)、神戸文化ホール・大ホールで自衛隊兵庫地方協力本部と兵庫県防衛協会など自衛隊協力団体の共催により開催された。海上自衛隊呉音楽隊、陸上自衛隊第3音楽隊、陸上自衛隊姫路駐屯地白鷺太鼓、なぎさ小学校児童など総勢141名が出演し演奏を披露した。約2000人の来場者は、心ときめくひとときを楽しんだ。

阪神淡路大震災で被災した方々を応援する思いから始めた本コンサートも今年で17回目を迎え、神戸が復興を終えたことから今回で幕を閉じることとなった。

毎年、多くの方にご覧頂いているコンサートも最後ということもあり、冬の寒い日にもかかわらず会場の1時間前から並ぶ方がいるなど、会場は多くの来場者で埋めつくされた。

コンサートは4部で構成され、第1部では、第3音楽隊による演奏が行なわれた。第3音楽隊は初回の1997年から参加しているレギュラーバンドで隊長の佐藤1尉の指揮のもと力強い演奏で始まった。次にスペシャルゲストとして元宝塚歌劇団の鳴海じゅんさんと梅園紗千さんが登場し、ミニ宝塚ショーが行なわ

れた「愛あればこそ」「すみれの花咲くころ」を披露、来場者は歌と踊りの世界を楽しんだ。

第2部では、姫路駐屯地白鷺太鼓による太鼓演奏を披露した。第3部では、海上自衛隊呉音楽隊が演奏し、海に因んで「錨を上げて」を演奏、その他2曲を披露した。

第4部は第3音楽隊と呉音楽隊総勢74名による合同演奏が行われ「威風堂々第1番」「ドールズコレクションI」もおもちゃの兵隊」の2曲を披露、フルオーケストラ並みの迫力のある演奏で観客の耳を楽しませた。

フィナーレは、神戸市立なぎさ小学校の児童を迎え、神戸の復興を願って作られた「しあわせ運べるように」を来場者とともに合唱した。

来場者からは、小学生の歌声に合わせて当時を思い出し、思わず涙される方が多く見られた。

コンサートは感動に包まれ満場の拍手の中、17年の幕を下した。

### 中部方面記念行事

10月13日(日)、兵庫県防衛協会は陸上自衛隊伊丹駐屯地(伊丹市)において実施された「中部方面隊創隊53周年記念行事祝賀会」を共催した。

記念行事は、感謝状の贈呈式や記念式典、模擬戦などが行なわれ特に、模擬戦では実際に動く戦車やFH-70による空砲射撃など、自衛隊員の日常の訓練を垣間見ることができた。

その後、実施された祝賀会食においては、協力団体を代表して宮内常任理事が、「乾杯」の挨拶を行い兵庫県防衛協会の存在感を大いに示した。

祝賀会には、防衛協会のほか、防衛基盤を支える様々な協力団体等の役員が出席し、自衛隊の主



乾杯の挨拶をする宮内常任理事

### 兵庫地本記念行事

要幹部らと日本の防衛について語り合うなど懇親を深め、祝賀会は盛会の内に滞りなく終了した。

11月23日(土)、神戸北野プラザ六甲荘において、自衛隊兵庫地方協力本部創立57周年記念行事が開催された。

記念行事に先立ち自衛隊兵庫地方協力本部長から協力者に対し感謝状の贈呈が行なわれ、兵庫県防衛協会から、大橋会長と宮内常任理事が受賞した。

その後、祝賀会食が開催され、冒頭の挨拶を兵庫県自衛隊父兄会の会長が行い、続いて兵庫県防衛協会の宮内常任理事が「乾杯」の挨拶を行なった。

出席者は終止和やかな雰囲気の中、祝宴を楽しんでいた。

祝賀会の終了に先立ち兵庫地方協力本部の服部本部長が、日頃の防衛省自衛隊への協力に対する謝辞を行った。

最後に、隊友会会長より締めめの「万歳三唱」を行い、祝賀会はお開きとなった。

# 全国防衛協会青年部会 青年研修大会 宮崎大会

11月1日(金)に宮崎県宮崎市都城で行われた、全国防衛協会連合会青年部会宮崎研修大会に兵庫県防衛協会青年部会から、小島会長以下12名が参加した。

今回は、陸海空自衛隊それぞれの装備品や訓練を見学する研修が行われ、新田原基地に集合したあと、早速、陸自ヘリコプターCH-47(通称：チヌーク)に搭乗し、海上で待ち受ける海上自衛隊護衛艦「いせ」に着艦、護衛艦の見学を行った。

見学後、再びヘリで新田原基地に移動、基地内で体験喫食や装備品展示などを見学した。

会長会議では、青年部会の組織がある33都道府県から各青年部会会長が集まり、会の活動報告や今後の活動内容などを報告された。小島会長

は、この会議を通じ、今後も「兵庫県は青年部会会員2000人を目指して頑張り、会員とともに自衛隊を支援し国の防衛に尽力していきたい。」と会の拡大に対する意欲を述べた。

その後、訓練展示が行なわれ、航空自衛隊のスクランブル発信の模擬訓練の見学からはじまりF-15戦闘機及びF-2



懇親会で力強く乾杯をする会員



スクランブル発信の訓練を見学

## へり体験搭乗

戦闘機による機動訓練、その後、陸上自衛隊による訓練を見学した。戦闘機のジェットエンジンの爆音や戦車、FH-70の空砲射撃の大きな音に会員は驚いていたが、同時に日本を防衛する自衛隊の装備品や隊員の熟練した技術を目の当たりにして、自衛隊が高い防衛能力を保持していることを再認識できた。

今回の研修を通じて、陸海空自衛隊への理解を更に深め国防の重要性を再認識することができた。

## 姫路港艦艇見学

7月15日(月)、姫路港において、行なわれた姫路港フェスティバルに青年部会小島会長以下6名が参加し、兵庫地本の広報ブースを支援した。

当日は、開始前から雨が降っており、来場者数が心配されたが、普段見ることのない海上自衛隊の護衛艦や陸上自衛隊の装備品を見学できると多くの観客

## 富士総火演研修

8月24日(土)、兵庫防衛協会は自衛隊兵庫地方協力本部の支援を受け、東富士演習場で行われた「富士総合火力演習」を研修した。参加者は、青年部会小島会長以下27名と兵庫地本から3名の同行者を併せて総勢30名となった。

当日は前日の雨の影響もあり弾着地域が霧に包まれ実施が心配されたが、演習開始前から霧が徐々に晴れはじめ開始直前には弾着地域が見える程に回復、予定どおり演習が行な

われた。演習は順調に進行し様々な主要装備品が登場した。対戦車ヘリAH-64(通称アパッチ)、偵察装甲車、155mm榴弾砲FH-70など登場するなか、一番目を引いたのは、平成22年度より採用されている10式戦車が登場し実弾射撃を行う場面で、大きな音に身構える観客の緊張した空気が流れた。参加者は、迫力のある火炮の射撃やその精度の高さ、そして、隊員達の整齊とした行動に感激し、一心に火力演習に目を向けていた。

## 小松航空祭研修

10月5日(土)、兵庫防衛協会の会員32名が自衛隊兵庫地方協力本部の支援を受け航空自衛隊小松基地で開催された「小松基地航空祭」を研修した。



小松基地にて記念撮影

当日は、晴天に見舞われ、まさに航空祭日和であった。航空祭には地元の家連れや全国の航空ファンなど約10万人が基地に詰めかけた。滑走路ではF-15J戦闘機やF-4戦闘機が展示され、間近で見ることができ、参加者は大興奮、さらにT-4ブルーインパルスによる展示飛行が始まると一糸乱れぬ飛行と数々のハイレベルな飛行技術に参加者の目は釘付けとなった。



目標に砲身を向け射撃準備する10式戦車

兵庫地方協力本部  
だより

### 合同企業説明会

兵庫地本は、10月1日(火)神戸市・神戸国際展示場において「第2回阪神地区合同企業説明会」を行った。

本説明会は、自衛隊援護協会の主催で、毎年6月と10月の2回行い、雇用協力企業等による説明会として、阪神地区(大阪、兵庫、奈良、和歌山)に就職を希望する任期満了退職隊員等の早期かつ効果的な就職援護を図っている。

参加者は、陸海空自衛隊員134名の隊員が参加し、参加企業も昨年を大きく上回る146社が参加した。当日は、3時間という限られた面談時間の中、参加隊員は1社でも多くの企業との面談実施に向けてそれぞれ入念に計画し、多い者では10社以上の企業との面談を実現していた。



企業の説明、面談を受ける隊員

また、企業から隊員を指名する「逆指名」が例年以上に多く、企業側の退職自衛官雇用に対する期待の大きさも感じることができた。

また、本行事を行なうに当たって、参加企業の募集等で協力を頂いている兵庫県防衛協会の雇用促進部会から副部会長も出席し、隊員の就職希望の状況及び企業との面談内容等を把握した。

さらに予備自衛官ブー스를開設し、パネル展示やDVD放映等を通して予備自衛官等制度を普及することができた。

毎年合同企業説明会による企業とのマッチング率は、6割を超えており、兵庫地本では、企業や雇用促進部会等と連携し、更なるマッチング率の向上を図っていききたい。

### 体験入隊

兵庫地本は、8月28日(水)〜29日(木)

の2日間、伊丹駐屯地において、関西学院大学生16名に対し、生活体験を実施した。



体験入隊に参加する関学学生

などと話し、慣れない事ばかりで苦戦しながらも訓練を楽しんでいた様子であった。

兵庫地本では、今後も大学生等に対し生活体験を行い自衛隊のPR活動に努め、1人でも多くの優秀な人材の獲得につなげたいとしている。

### 淡路島でPR活動

兵庫地本は、10月13日(日)南あわじ市にある淡路ふれあい公園で開催された「食と文化の市民まつり」において陸上

自衛隊姫路駐屯地の協力を得て行事を支援した。当日は、穏やかに晴れ渡った秋空のもと、約6千名の来場者があった。会場内において、広報ブー스를開設し、陸上自衛隊姫路駐屯地が装備する82式指揮通信車と偵察用オートバイを展示した。

来場者は、展示車両に触ったり、ミニ制服を着用し展示車両

迷彩服をきて決めポーズ「敬礼！」



の前で写真を撮ったりと自衛隊とのふれあいを楽しんでいた。

来場者からは「自衛隊の車両を初めて見ました。こんなに大きな車両を自在に使うことができますのは凄いなと思います。」など自衛隊の装備品に興味津々の様子であった。

また「テレビ番組で工科大学に興味をもった息子を入隊させたいが、どのような試験があるのか。」、「防衛大学に行きたいが、必要な選択科目について教えて欲しい。」といった入隊に関する質問もあり、募集に直結したイベントであった。今後このような機会を活用し、地域の方々に自衛隊に対する認識を深め、積極的な広報活動に努めていきたいとしている。

### 高校生に防災教育

兵庫地本は、9月30日(月)兵庫県立香住高等学校(美方郡香美町)において全校生徒350名を対象に防災講話を行った。

この防災講話は、学校からの要請に基づき、防災教育の一環として行われたもので、阪神淡路大震災や東日本大震災の発生に伴い防災への関心が高まるなか、高校生としての立場から震災にどう備えるかを主なテーマとして行われた。当日は、兵庫地本渉外広報室長の山谷3陸佐が講師として招かれ、東日本大震災における自衛隊の活動状況や被災地域の状況と住民の取り組み、大震災を通じての教訓事項、そして将来、予想される南海トラフ大地震への備えについて講話をした。特に震災時における学校の役割や生徒個人ができる防災対策等が写真や記録映像を



熱心に防災講話に耳を傾ける学生

通じて分かり易く解説がなされた。香住高校は、日本海に面していることから予想される津波の被害と津波発生時の具体的な対処法も紹介された。受講した生徒の一人は「改めて東日本大震災の被害の大きさを実感しました。身を守るにはどんな備えが必要なのかも含めて災害について考える良い機会となりました。」と話していた。兵庫地本では、「災害の実態を一人でも多くの生徒に理解してもらい、将来の災害に備えるの一助となるよう、今後とも学校における積極的な防災教育を展開して行きたい」としている。